

令和2年度

学校法人マロニエ文化学園
学校評価結果報告書について

令和3年 3月
学校法人マロニエ文化学園
学校長 若杉 豊

令和2年度 マロニエファッションデザイン専門学校

学校評価結果報告書

学校自己評価の結果を踏まえ当校の関係者が行う「学校評価」をとりまとめるにあたり、「学校関係者評価委員会」新たに設置されました。

学校関係者評価委員会は学校に関係の深いファッション業界関係者やアパレル産業関連分野企業関係者、卒業生、法律家、財務専門家などの方々より幅広いご意見等をお聞きし、今後の本校の教育と学校運営に反映させるべくご意見等を頂きました。学校関係者評価で取りまとめものは本校のホームページに自己評価と共に公開しております。(https://maronie.ac.jp/info/public_info/)

関係者の皆様には、貴重なお時間を頂き本当に有り難うございます。
今後の職業教育に役立て、業界の発展に貢献できる人材育成に役立てて参りますので、今後ともご支援ご指導を宜しくお願い申し上げます。

令和3年 3月
マロニエファッションデザイン専門学校
学校長 若杉豊

学校法人マロニエ文化学園 令和2年度 学校評価結果報告書

評価項目一覧

基準1	教育理念・目的・育成人材像
評価項目 1-1	理念・目的・育成人材像は定められているか
評価項目 1-2	学校の特色は何か
評価項目 1-3	学校の将来構想を抱いているか
基準2	学校運営
評価項目 2-4	運営方針は定められているか
評価項目 2-5	事業計画は定められているか
評価項目 2-6	運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか
評価項目 2-7	人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか
評価項目 2-8	意思決定システムは確立されているか
評価項目 2-9	情報システム化等による業務の効率化は図れているか
基準3	教育活動
評価項目 3-10	各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか
評価項目 3-11	各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育機関を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか
評価項目 3-12	カリキュラムは体系的に編成されているか
評価項目 3-13	学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか
評価項目 3-14	授業評価の実施・評価体制はあるか
評価項目 3-15	育成目標に向け、授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか
評価項目 3-16	成績評価、単位認定の基準は明確になっているか
評価項目 3-17	資格取得の指導体制はあるか
基準4	教育成果
評価項目	就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか
評価項目 4-19	資格取得率の向上が図られているか
評価項目 4-20	退学率の低減が図られているか
評価項目 4-21	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
基準5	学生支援
評価項目 5-22	就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか
評価項目 5-23	学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか
評価項目 5-24	学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか
評価項目 5-25	学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか
評価項目 5-26	課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか
評価項目 5-27	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか
評価項目 5-28	保護者と適切に連携しているか
評価項目 5-29	卒業生への支援体制はあるか
基準6	教育環境
評価項目 6-30	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
評価項目 6-31	学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
評価項目 6-32	防災に対する体制は整備されているか
基準7	学生募集と受け入れ
評価項目 7-33	学生募集活動は適正に行われているか
評価項目 7-34	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
評価項目 7-35	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき、行われているか
評価項目 7-36	学納金は妥当なものになっているか
基準8	財務
評価項目 8-37	中長期的に学校の財務基盤は安定しているかどうか
評価項目 8-38	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
評価項目 8-39	財務について会計監査が適正に行われているか
評価項目 8-40	財務情報公開の体制整備はできているか
基準9	法令等の遵守
評価項目 9-41	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
評価項目 9-42	個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか
評価項目 9-43	自己点検、自己評価の実施と問題点の改善に努めているか
評価項目 9-44	自己点検、自己評価結果を公開しているか
基準10	社会貢献
評価項目 10-45	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか
評価項目 10-46	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

領域	教育理念・目的・育成人材像
-----------	----------------------

令和2年度

▶評価 1:適切 2:ほぼ適切 3:ふつう 4:やや不適切 5:不適切

番号	1-1
評価項目	教育理念・方針・育成人材像は定められているか。
評価	1
自己評価等	<p>本学は理念と教育目標を見直し以下の通り、理念と教育目標を定めている</p> <p>■教育理念 ファッションの真の魅力の追求</p> <p>■教育目標 ファッションの世界で「自立」出来る人材を育成する。新たなファッション、トレンドを生み出すクリエイターとしてだけでなく、社会の潮流に合わせた物を提供できる社会人としての強みを生かすことによって、動きの激しいファッション業界を生き抜く。新しい発想でファッションを考え、それを実現させる技術を習得している次世代型のクリエイターを育成する。</p>
課題	<p>教育理念、教育目標の必要な部分は継承しながら、時代に応じた教育内容を取り入れる必要がある。</p> <p>「自立させる教育」ではなく「自ら自立を考え学ぶ姿勢を作るための教育」を目指すために必要な目標を定める必要がある。</p>
改善策	<p>理事会、評議員会、教職員による全体会議で見直しを図るとともに各会議で協議された内容を意見交換する場を設ける。</p> <p>教職員には年2回、前期7月、後期3月の全体会議にて、学生にはオリエンテーション等において周知する。</p>
学校関係者評価	2
	<p>個人個人間での双方コミュニケーションの向上を念頭に、現状の授業・オリエンテーションを通じて教育形態に浸透させるかを常に検討する必要がある。前回のスコアを振り返り、自己採点をしながらレベルアップして行かなければならない。</p>

番号	1-2
評価項目	学校の特徴は何か
評価	2
自己評価等	<p>社会で「自立」して生きていくための力を身につけた人材を育成していく事。</p> <p>そのために、本学は目標を明確にし、個別指導をする事で達成度を確認しながら成長できる独自のキャリア教育、実践的な講義、実習を開催出来るようにしている。その結果、就職後の高い評価を実現している。</p>
課題	<p>ファッション教育の専門学校として、社会に入って即戦力となるような実践的カリキュラムをいかに体系的に身につけさせるか、またそれを発展させ続けられるような環境を作るかが課題である。</p>
改善策	<p>外部組織との連携し、学校と社会を繋ぐ教育について教職員と共に協議していく。</p>
学校関係者評価	2
	<p>外部組織と関わる際に意見交換をはかりながら、現状に不足している要素を理解することが必要でありそれらの情報を学内全体で共有しながら、討議する場を設ける必要がある。</p>

番号	1-3
評価項目	学校の将来構想を抱いているか
評価	3
自己評価等	<p>本学は、「理念・人材育成像」で触れたように、ファッション教育の向上をめざし、日々変化するファッション業界の中で活躍出来る人材、業界貢献のできる人材を育成するため、理事長、評議員を中心に将来構想を練っている。</p>
課題	<p>理事長、評議員を中心とした委員会を設置し、定期的な協議の場を設けると同時に現場の教員の意見交換する場を設ける必要がある。</p>
改善策	<p>「中長期計画委員会」にて、具体的に将来構想を検討していく。</p>
学校関係者評価	3
	<p>入学者の確保と共に学内の組織体制の見直し、情報共有を徹底し、中長期計画を具体的に実行されていると思われる。具体的なスケジュール管理をしながら、PDCAサイクルの精度の向上をはかる必要がある。</p>

領域	学校運営
-----------	-------------

令和2年度

▶評価 1:適切 2:ほぼ適切 3:ふつう 4:やや不適切 5:不適切

番号	2-4
評価項目	教育理念・方針・育成人材像は定められているか。
評価	3
自己評価等	昨年度立てた事業計画に基づいての運営方針や年度目標が決定され、それを事務局、教務、広報に共有され実施している。理事会、評議委員会での承認の元を実施されており、しっかりした運営方針が定められている。
課題	事業計画の変更や予算の補正に関するの情報共有が細部まで行き渡っていないために部門によって理解度に違いが出ている。
改善策	次年度は、期中に年度計画の変更や予算の補正を理事会で協議する機会を設ける。
学校関係者評価	3 事業計画内容の共有の徹底が必要かと思われ、また前期・後期ごとに見直しを図ることも必要である。

番号	2-5
評価項目	事業計画は定められているか
評価	3
自己評価等	毎年10月の理事長・事務局による次年度の運営方針会議で立案された事業計画は11月に理事会・評議委員会で承認されている。その事業計画に基づいた業務計画を各部門長が立案している。
課題	各部門の立案の進捗管理の徹底が出来ていない。スケジュールに基づき進捗の報告が必要ある。部門間での進め方に進行の差がある。
改善策	各部門長が立案する業務計画を毎月報告し、事務局長が毎月進捗管理し、理事会にて協議する。
学校関係者評価	4 前期・後期において、各部門にて目標設定と達成度を数値化して明確にし、期中に見直しを図りやすくすることが必要である。

番号	2-6
評価項目	運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか
評価	3
自己評価等	運営組織は教務部、広報部、就職部、事務局、経営企画室から構成されており、業務をしっかりと分割し、全体会議では各部門間の情報共有、連携が行われている。また各部門での会議も定期的開催されており、機能的に運営が行われている。
課題	現状では予算の立案と執行を事務局が行っているため、前年より部門長に予算計画を行うようにしているが、部門長からの予算計画の精度をより精度の高い予算計画を立案しなければならない。
改善策	部門長と事務局共同にて予算計画の立案を行い、精度の高い計画が出来るようになり次第、部門長のみで予算計画を立案するような段階的な施策計画を策定する。
学校関係者評価	3 組織運営の向上を都度検討しつつ、効率の高い運営方法の見直しを検討することが必要である。

領域	学校運営
-----------	-------------

令和2年度

▶評価 1:適切 2:ほぼ適切 3:ふつう 4:やや不適切 5:不適切

番号	2-7
評価項目	人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか
評価	3
自己評価等	人事考課については、年度末に部門長が昇進・昇格に反映させている。 賃金については、給与規定に基づいて決定している。昇給や昇進・昇格については、上記査定や経営状況を基に行っている。
課題	自己目標の実施に基づいた活動を行っているかの確認を行う必要があり、それを行った上で査定に反映させる必要がある。
改善策	自己目標のシートを作成し、理事長、学校長、事務局長が随時確認を行う。
学校関係者評価	3 毎年、各部門ごとに明確な目標を設定し、評価基準をしっかりと設定する必要がある。

番号	2-8
評価項目	意思決定システムは確立されているか
評価	3
自己評価等	学園組織図にある理事会・評議員会・経営会議、教務会議、広報会議において、意思決定が行われている。 各会議では、規定に基づいて学校運営について協議し、意思決定ができています。 理事会・評議員会は年2回、教務会議は毎月、経営会議や広報会議は毎週開催している。
課題	理事会・評議員会は予算・事業計画と決算・事業報告の開催回数が年2回のため、 年度途中の重要議案に対応出来るよう理事会・評議員会場合によっては開催する必要がある。
改善策	期中の理事会・評議員会の開催回数を増やし、対応していく。
学校関係者評価	3 学園全体の運営に合わせた意思決定の仕組みと権限を検討して行くことが必要である。

番号	2-9
評価項目	情報システム化等による業務の効率化は図れているか
評価	3
自己評価等	学校システムとして、学生募集、入試、教務・労務管理、就職、学校訪問システムを導入している。 また、給与管理システムや財務管理システムを導入している。 現在の規模での新たなシステム導入は費用対効果がそれ程発揮出来ないため、現状のシステムで問題ない。
課題	情報交換用のシステムを導入したが、全ての情報が上がってくる訳ではないので今後運用方法なども討議すべき。
改善策	各会議での議事録などもシステムに上げるようなルール化を進めて行く。
学校関係者評価	3 現状のシステムの向上と、適切に使用しているかを都度検討することが必要。 システムとしては構築されているが、後はそれを運用していくルールの補足が必要である。

領域	教育活動
-----------	-------------

令和2年度

▶評価 1:適切 2:ほぼ適切 3:ふつう 4:やや不適切 5:不適切

番号	3-10
評価項目	各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか
評価	3
自己評価等	「自立」して生きていくための力を身につけた人材を育成することを目的に、キャリア教育と業界最先端の知識技術を身に着けさせることに重点を置いており、各学科長の立案に基づいてカリキュラムを作成している。
課題	学科長の主導により、教員には毎年教育目標、育成人材像の共有の場が必要である。 非常勤講師に対しても教育目標、育成人材像を共有し、それに基づいたカリキュラムを構成出来るように実施する必要がある。
改善策	教務会議において毎年の教育目標や育成人材像、科目ごとの目標に沿った授業計画や授業の到達点を全教員に共有する。 非常勤講師と教員との会議も開催し、共有の場を増やしてゆく。
学校関係者評価	2
	学校全体での共有を行いつつ、教育目標に対する到達度を評価理由に振り替えり、次につながる目標づくりを設定すること。

番号	3-11
評価項目	各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は業界の人材ニーズレベルに照らし、また学科の教育機関を考慮して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか。
評価	4
自己評価等	業界のニーズを把握するために外部企業との接点を多くもつようし、カリキュラムに反映するために、年1回業界企業の教育委員と定例会議を行い、業界のニーズレベルに即した知識と技術を取得できる教育内容を整備している。 それに合わせて授業時間の設定、科目を適正に配置している。科目ごとに目標や到達点を定め、到達可能な授業計画を立て授業を行っている。
課題	カリキュラム内容が、目標到達しているかの確認が必要。年間カリキュラムの中でどの項目が目標到達していてその項目が目標到達していないかを明確にし、次年度以降それに基づき修正を行う必要がある。
改善策	教務会議において毎年協議し、学生授業アンケート等をもとに、次年度へ向けて修正する体勢を実施すべき。
学校関係者評価	4
	業界のニーズを効率的に把握し、それに基づいた教育目標を明確にする必要がある。

番号	3-12
評価項目	カリキュラムは体系的に編成されているか
評価	4
自己評価等	1年次の基礎、2年次以降の専門教育に加え、企業との接点を増やし社会と接する事でより一層広く教養を身に付けさせ、業界で必要な知識と技術を習得出来るよう体系的なカリキュラム編成を行っている。
課題	教育委員と教務部のカリキュラム編成会議の回数が少ないため、定期的な開催をする必要がある。
改善策	カリキュラム編成会議を年2回実施し、より一層体系的なカリキュラム編成を目指す。
学校関係者評価	4
	カリキュラム編成会議での協議内容を確実に考慮し、現状に沿ったカリキュラム修正を実行することが必要。

番号	3-13
評価項目	学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか
評価	3
自己評価等	業界企業の教育委員と教務部が、ファッション業界で必要な知識と技術を習得出来るよう体系的なカリキュラム編成を行っている。 各科目ごとに教育目標を設定し、年間カリキュラム計画、実習内容、定期試験等を決定している。
課題	科目担当教員が作成した科目概要はあるが、全体像の把握、科目間の連携などがまだ不十分である。
改善策	学校全体のカリキュラム監修の担当者を設定し、全体像の把握、科目間の連携などを進める必要がある。 また、外部講師を交えての意見交換の場も必要。
学校関係者評価	4
	学校長・教務部長とともに、各科目の全体像を把握した立場で整理し、反映できる体制づくりが必要である。

領域	教育活動
-----------	-------------

令和2年度

▶評価 1:適切 2:ほぼ適切 3:ふつう 4:やや不適切 5:不適切

番号	3-14
評価項目	授業評価の実施・評価体制はあるか
評価	2
自己評価等	教務部が作成した評価基準に基づき、教員、学校長、理事長が定期的にチェックしている。
課題	全ての項目が数値化されている訳ではないので授業目的や到達点、授業計画に基づき数値化する必要がある。
改善策	教務部で現状の評価基準の見直し、数値化を図り、校長、理事長に定期的に確認をしてもらえ体制を整備する。
学校関係者評価	3
	評価基準の見直しおよび、明確な数値化を図ることを期待する。

番号	3-15
評価項目	育成目標に向け、授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか
評価	3
自己評価等	専任教員採用に関しては、教員・実務実績や現場経験等と、本校のファッションの世界で「自立」して生きていくための力を身につけた人材を育成するにふさわしい人間性を備えていることを採用基準として、面接選考や書類選考、必要な場合は実技選考を行い、理事長・経営企画室において決定している。 非常勤教員の採用に関しては、上記資格や経験に加え、現在の実務内容に応じて面接選考や書類選考、必要な場合は実技選考を行い、理事長・事務局長において決定している。
課題	定期的に教職員の研修とスキルアップ、評価をする体制の整備が必要。
改善策	教職員に対する評価基準を設置し、定期的な研修、スキルアップを実施する。
学校関係者評価	3
	教員の研修、スキルアップの内容を毎年毎に設定し、相互の評価確認を行うのが望ましい。

番号	3-16
評価項目	成績評価、単位認定の基準は明確になっているか
評価	4
自己評価等	科目担当教員は、学生に配布する授業科目ごとの科目概要において成績評価方法を決定し、その評価基準によって厳格に成績評価している。また、それらに基づき学生指導・支援を行っている。
課題	成績評価シートが科目ごとに統一されないため、統計データが取りにくく、管理が困難である。
改善策	全科目評価シートの統一を行い、学生一人ひとりの成績の把握を共有出来る仕組みを作り、それに基づき指導して行く必要がある。
学校関係者評価	4
	評価シートの統一が必要。単位認定基準を学生に対して明確に周知徹底させるために、シラバスの共有化が必要である。

番号	3-17
評価項目	資格取得の指導体制はあるか
評価	4
自己評価等	ファッション系資格取得に関しては、カリキュラムを見直し試験範囲に対応した授業内容に改め、補講をなどで補っている。 本校では、試験対策授業や模擬試験、直前対策講座、補講を実施している。
課題	高い合格率を目指すために、各資格ごとに将来的にどのように役立つかなどを含めて学生に認知させる必要があり、自ら気づき、資格取得を目指すような体制を整備する事が出来ていない。
改善策	試験対策授業や模擬試験のみではなく、その資格自体の意味を理解させた上で指導する事が必要。
学校関係者評価	4
	資格取得に対する意味や知識を理解させる指導と実習の機会を行う必要がある。

領域	教育成果
-----------	-------------

令和2年度

▶評価 1:適切 2:ほぼ適切 3:ふつう 4:やや不適切 5:不適切

番号	4-18
評価項目	就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか
評価	2
自己評価等	キャリアセンターを設置し、選任の就職担当者を在籍させる事で、在校生に対して個別にサポートする事で高い就職率を達成出来ている。
課題	年々専門就職率は向上しているが、100%を達成すべく努力を続けている。 出来るだけ多くの学生に夢をかなえて就職出来るよう就職対象者向上も課題である。
改善策	入学後すぐからのキャリア教育の徹底が必要。 また日々のクラス担任、就職担当とのサポート体制を強化して行く必要がある。
学校関係者評価	2 専門学校として、就職率の向上が必須であるため、継続的な就職支援の強化が必要である。

番号	4-19
評価項目	資格取得率の向上が図られているか
評価	2
自己評価等	専門就職率の向上に対して資格取得率の向上は必須で、カリキュラムの中に資格取得へ向けての科目も取り入れ、高い合格率を達成出来ている。
課題	日々新たな資格が生まれて行く中でファッション業界で自立して生きて行く為に必要な資格を絶えず見直し、合格実績を上げて行く事が必要である。
改善策	合格実績向上のため、個別指導による、試験対策講座、模擬試験の実施などの対策が必要となる。
学校関係者評価	2 業界に求められる実務に必要な資格を選定し、指導の強化を実施すること。夏期・冬季期間に強化ゼミ等を配置するなど工夫が必要。

番号	4-20
評価項目	退学率の低減が図られているか
評価	3
自己評価等	クラス担任による定期的な面談を実施する事により、で退学者0名を教育成果の最終目標に学校運営を行っている。
課題	学生が目標を達成出来るように、保護者と三位一体となり、支援する体制作りを行う必要。 また、入学前にファッションの仕事内容や資格試験、授業内容、学校生活等を伝えることにより、進路変更を低減していきたい。
改善策	入学前教育などにより、ファッション業界の内容や、キャリア教育の理解度を上げ事が必要である。 また、教職員全員が学生の情報を共有し、支援する集団指導体制の整備を行う。
学校関係者評価	3 定期的な学生個別のカウンセリングを継続しつつ、教職員全体の組織として対応して行く事が必須である。

番号	4-21
評価項目	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
評価	3
自己評価等	同窓会組織を組織し、年に1回程度の会合を実施することで卒業生の発表等の活動を把握するようにしている。 卒業生同士の交流の場を提供し、卒業生の情報のプラットフォームを構築しており、在校生へも提示する事で評価収集している。
課題	同窓会組織の認知度がまだ低く、あつまる情報量が少ない。
改善策	同窓会組織の担当者を決め、中期的計画を立てるとともに予算化し、継続的な運営を行えるようする体制の整備が必要。 また、同窓会組織を通じての、転職紹介も行っており、卒業後継続的なサポートが常にできるよう体制を整備していく。
学校関係者評価	3 業界内状をリアルタイムで情報をとらえ、同窓活動の活性化を目指し、業界評価に結びつけることが必要である。

領域	学生支援
-----------	-------------

令和2年度

▶評価 1:適切 2:ほぼ適切 3:ふつう 4:やや不適切 5:不適切

番号	5-22
評価項目	就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか
評価	3
自己評価等	本校の就職・進学体制は、専門分野での就職を第一に考え、就職の専門部署であるキャリアセンターを設け、専門スタッフが個別指導を行っている。就職部が年間の就職サポートプログラムを企画・実施し、それと連携してクラス担任が個別サポートを実施し、学内就職セミナー、就職ガイダンス等を実施している。クラス担任は就職希望調査や個別面談を実施し、きめ細やかな個別サポートを行うことによって、学生の就職に結び付けている。
課題	1年時からのキャリア教育を実施出来ていない。就職部との定期的な面談を行う体制も整っていない。 就職先企業との情報交換、採用したい人材像についてヒアリングをかけ、就職指導やカリキュラムに反映する体制を整える必要がある。
改善策	キャリアセンターの専門スタッフが就職先企業の経営者、人事担当者から聴いた声を就職指導に反映させ、1年次からキャリア教育を実施し、長期的視野を持って指導して行く必要がある。
学校関係者評価	3 1年次より就職指導の個別面談を実施し、個別に沿った支援体制を継続していくことが必要である。

番号	5-23
評価項目	学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか
評価	3
自己評価等	クラス担任制を取る事で個別に学生相談に対応出来るような体制を整備している。 また、学生相談室を設置し、専門スタッフが、学業以外の相談なども出来るような体制が出来ている。
課題	教員によるカウンセリングの機会の増加、スキルの強化が必要である。 また、良き相談者であるよう日常から教員としての自覚を持ち、業務を遂行する体制が必要。
改善策	学生に寄り添って理解してあげられるような、教職員のカウンセリングスキルや知識の強化のための研修を定期的実施する。
学校関係者評価	3 学業、学業以外共にサポートしていく体制を整えるために教職員の研修を実施する必要がある。

番号	5-24
評価項目	学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか
評価	1
自己評価等	学生募集段階から、日本学生支援機構の奨学金制度やオリエンテーションと提携した教育ローンの案内を実施している。 また、新たな学費分納制度の導入により、経済的な支援を行っている。
課題	学業優秀者に対する経済支援も今後検討すべき。
改善策	毎年学業優秀者に対する奨学金を支給する施策を学内で検討して行く必要がある。
学校関係者評価	1 在学生に対する奨学金制度の周知と実施を定期的に進めて行く必要がある。

番号	5-25
評価項目	学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか
評価	4
自己評価等	学校保健法に従い、毎年1回レントゲン検査を行っている。また希望者対象の健康診断もやっている。 在学生の精神的なサポートとして個別で相談出来る環境を整備している。学内での発病、けが、事故等が発生した場合、学校医とクラス担任、事務局が連携して適切な対応をと行える体制と保健室を整備している。
課題	学園生活を送る上で発生するさまざまな悩み事に対して教職員全員がサポートして行けるような体制を整備する必要がある。 また学生が学校医に健康相談等できる体制も整備しなければならない。
改善策	教職員全員にカウンセラー資格を取得していくことも検討、在学生のよりより学園生活をバックアップする体制が必要であり、また学生が学校医に健康相談等できる体制も整備が必要。
学校関係者評価	3 教職員がメンタルケアのための資格を取得することも検討し、今後一層サポート体制を強化して行く事を期待する。

領域	学生支援
-----------	-------------

令和2年度

▶評価 1:適切 2:ほぼ適切 3:ふつう 4:やや不適切 5:不適切

番号	5-26
評価項目	課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか
評価	3
自己評価等	学校が企画し、希望者を対象に海外研修を実施しており、実施する研修先において、研修機会を用意している。 インターシップを募集している企業の情報を学生にしっかり理解させ、事前にオリエンテーションも行って支援している。 在学生が課外活動は公式SNSなどでも紹介している。
課題	課外活動に対しての予算を組み、継続的に支援出来るような対策がとれるか検討する必要がある。
改善策	理事会、評議員会、教職員による全体会議で議論をし、学生の要望の中からどういった支援が可能か検討していく場を作る。
学校関係者評価	3 各学科ごとの課外活動に対して、予算と実費の検証をはかることが必要。

番号	5-27
評価項目	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか
評価	4
自己評価等	本校では学生寮等は設けていないが、取引実績のある信頼できる不動産業者を入学前からあわせし、手数料の割引等の特典を設け、専用リーフレットを配布するなど多様化する学生の要望に対応している。
課題	一人暮らしの学生を中心に生活面でのメンタルサポートを行う必要がある。不動産業者と情報交換も積極的に行う必要がある。
改善策	担当が個別でメンタルサポートをする機会を設け、学校全体で共有し、対策を講じる体制を検討していく。 不動産情報を入学前からより一層周知させるように取り組む。
学校関係者評価	3 特に地方出身者からの学生に対し、生活面のメンタルケアも継続的に必要。学業に影響が出ないようサポートすること。

番号	5-28
評価項目	保護者と適切に連携しているか
評価	3
自己評価等	本校の教育目標達成のために必要な事業を援助して頂くため、保護者と連絡を行っている。 入学前も入学後も保護者との連携を取りながらより良い学園生活を送れるようにしている。 また就学状況等においてクラス担任が必要に応じて電話または文書によって保護者に連絡を取るようになっている。
課題	入学前から保護者専用の説明会を行うことが必要。入学後、保護者サポート会を組織し、学校の活動状況や学生実態を共有し、保護者の要望等を取り纏め、教育や学生サポートに反映する必要がある。
改善策	オープンキャンパスで保護者説明会の実施を検討する。 在学生の保護者が会員となる保護者サポート会を組織し、ニュースレターを保護者宛に送付し情報提供を行うほか、毎年の保護者会の役員会や総会、教育懇親会を開催し、学校の活動状況や学生実態を共有し、保護者の要望等を教育や学生サポートに取り入れたい。
学校関係者評価	3 保護者に対し、適切な情報提供と共に要望等を取り入れつつ、学生支援の向上をはかること。

番号	5-29
評価項目	卒業生への支援体制はあるか
評価	3
自己評価等	本校の卒業生は、同窓会組織に登録され、会員相互の研鑽、親睦を図り母校の発展に寄与することを目的とした会に所属する。 活動内容は年1回の定期的な会合の実施を通じ、卒業生同士の情報交換の場となる支援ができています。 また卒業生に求人情報を紹介する機会も設けている。
課題	同窓会組織の運営担当者が現状不在で、役員などの役割を決める必要がある。 卒業生の情報を受信出来る体制も整備する必要がある。
改善策	同窓会の組織化を検討する場を設ける。また、組織に対する予算を検討する。
学校関係者評価	3 同窓会組織の予算化は必要であり、一定の組織体制の整備を毎年ごとに構築すること。

領域	教育環境
-----------	-------------

令和2年度

▶評価 1:適切 2:ほぼ適切 3:ふつう 4:やや不適切 5:不適切

番号	6-30
評価項目	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
評価	3
自己評価等	施設設備については、定期的に教職員や学生の要望、および、事務局の自己点検により、協議して年度計画を立て、教育目標や育成する人材像に対応した環境として整備している。
課題	日々変化していくファッション業界では新たな設備が必要となる事が多いため、業界関係者と共に常に検討していく体制が必要。
改善策	業界情報を教職員がしっかり共有し、設備面でも現場からの意見を挙げられる場を設ける必要がある。
学校関係者評価	3 ソフトウェアは更新されているが、パソコンの老朽化が今後懸念される。計画的に入替えの予算化が必要である。

番号	6-31
評価項目	学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
評価	3
自己評価等	海外研修ではNABAミラノ・ニューヨークとの提携を進めており、今後交換留学まで含めて進めている。 学外実習として、スタイリスト課外実習を実施している。インターンシップでは、デザイナー研修を実施し、就職に備えている。 今年度はNYコレクションのバックステージに参加し、1週にわたり、スタイリスト研修を実施した。
課題	海外研修の研修先や研修内容について具体的な方針が必要であり、引き続き、新たなインターンシップ先を開拓していく必要がある。
改善策	本校の教育方針に沿った海外研修内容を協議すると共に研修先との提携を進めて行く必要がある。 外部組織との連携によるインターンシップ先の候補を検討していく。
学校関係者評価	3 インターンシップは企業と連携しながら行い、該当企業に評価してもらい、学生を育成する体制を強化して行く事を期待する。

番号	6-32
評価項目	防災に対する体制は整備されているか
評価	4
自己評価等	消防設備、電気設備、エレベーター等 施設設備に関しては定期的に点検を実施し、修繕等必要な処置を行っている。 また、年1回 全教職員と学生参加の防災訓練を実施している。
課題	災害緊急時における対処方法等のマニュアルがなく、周知されていない。
改善策	災害緊急時における対処方法等のマニュアル整備を進めながら、学生、教職員への周知、指導を行う。
学校関係者評価	4 防災意識を高める取り組みは重要であり、毎年定期的な防災訓練の実施が必要である。

領域	学生募集と受け入れ
-----------	------------------

令和2年度

▶評価 1:適切 2:ほぼ適切 3:ふつう 4:やや不適切 5:不適切

番号	7-33
評価項目	学生募集活動は適正に行われているか
評価	2
自己評価等	学生募集活動は、学校案内や募集要項を作成し、資料請求者等に配布している。また、パソコン、スマートフォン携帯向けホームページ、進学情報誌、進学情報サイト、校内ガイダンス、会場ガイダンス等で情報提供したり、在校生の出身高校や指定校への高校訪問により情報提供している。また、入学希望者およびその保護者のニーズに対して適切に正しく行われている。
課題	高校訪問が十分に行えておらず、ファッション分野の仕事について高校進路担当教員に継続して伝えて行く事が課題である。
改善策	定員の充足率を高める為に広報活動に力を入れ、魅力ある内容にするために定期的に見直す。 高校訪問を年間予定に入れ、計画的に充実させていきたい。
学校関係者評価	2 引き続き、募集活動を適切に実施すること。在校生の学業状況を理解したうえで訪問活動での情報共有に努めること。

番号	7-34
評価項目	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
評価	3
自己評価等	ホームページ、パンフレット等で正確かつ誠実に、教育成果を受験生や保護者・高校関係者の立場に立ち分かりやすく伝えている。資格や就職実績なども告知している。
課題	教育成果として卒業生の活躍等の情報充実が必要である。
改善策	ホームページ、パンフレット等において卒業生の情報提供に力を入れていく。
学校関係者評価	3 卒業生情報は教育成果の一つとして重要であり、数字の公表だけにならないよう、活動内容についてもしっかり公表する必要がある。

番号	7-35
評価項目	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき、行われているか
評価	1
自己評価等	本学では書類選考や面接選考を複数の担当者によって実施し、評価している。 その評価をもとに会議において合否判定を行っているため、適正な専攻ができる体制が整備されている。
課題	基礎学力試験の実施が必要だが、現状の学生募集状況では難しい。入学選考方法について協議していく必要がある。
改善策	ファッション業界で今後活躍出来る資質が高い受験生かどうか判断出来る基礎学力試験の導入を検討したい。
学校関係者評価	1 適切に行われていると思われるが、年度に即した学力試験の検討は今後継続が必要である。

番号	7-36
評価項目	学納金は妥当なものになっているか
評価	1
自己評価等	同業界のファッション系専門学校の額納金と比較して妥当な金額となっている。
課題	適正な基準を設定しながら引き続き学費を検討する必要がある。
改善策	適正な授業料設定を検討していく。
学校関係者評価	1 世間の情勢を見極めながら、適正な授業料が提供できているかどうかを引き続き確認する必要がある。

領 域	財 務
------------	------------

令和2年度

▶評価 1:適切 2:ほぼ適切 3:ふつう 4:やや不適切 5:不適切

番号	8-37
評価項目	中長期的に学校の財務基盤は安定しているかどうか
評価	3
自己評価等	無借金経営で財務基盤は安定している。 在校生数の変動はあるが近年の厳しい学生募集の状況から、単年度の収支状況は必ずしも安心できる状況ではないが、学生募集結果の向上策を検討することで改善していく。
課題	財務基盤は安定しているが、今後更に盤石な経営基盤の構築が必要。
改善策	今後更なる安定のために学生募集の安定、収益事業の検討を引き続き行う。
学校関係者評価	3 18歳人口の減少に伴い、学生募集が厳しくなる事が予想されるため、教育内容の更なる向上を行い財務基盤の安定を期待する。 無借金経営に関しては評価できるが、今後必要となる設備投資に関しての借入れも必要になる。

番号	8-38
評価項目	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
評価	3
自己評価等	予算案の作成は事務局にて立案した後理事会、評議会にて承認の決議を得ており有効に活用されている。 年度予算、中期計画も無理のない実現可能な数字にしており、概ね計画通り実施されている。
課題	年度ごとに予算を立てて執行しているが、予算及び執行に関する規定がない事が課題である。
改善策	経営会議にて予算及び執行に関する規定を定めていく。
学校関係者評価	3 健全な予算編成をし、執行については定期的に運営会議などで執行状況を確認して進めること。

番号	8-39
評価項目	財務について会計監査が適正に行われているか
評価	3
自己評価等	会計監査は税理士である監事により、毎年適正に行われている。
課題	現状では特に問題点はない。
改善策	なし
学校関係者評価	2 特に問題ないものと思われる。

番号	8-40
評価項目	財務情報公開の体制整備はできているか
評価	3
自己評価等	財務諸表及び関連書類を作成し、理事会、評議員会での承認後事務局にて常備している。 財務情報公開の体制整備は出来ており、学校ホームページ上でも掲載している。
課題	情報公開に関する規定がない事が課題である。
改善策	経営会議にて公開する情報と公開方法に関する規定を検討する。
学校関係者評価	3 引き続き、今後の情報公開について積極的な姿勢を求める。

領域	法令等遵守
-----------	--------------

令和2年度

▶評価 1:適切 2:ほぼ適切 3:ふつう 4:やや不適切 5:不適切

番号	9-41
評価項目	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
評価	2
自己評価等	法令や専修学校設置基準等が遵守され、適正な運営が行われている。 また諸規則や学則等も教職員への周知が計られている。
課題	教職員への周知は計られてるが、学生に対しての周知が計られていない。
改善策	在学生に対しても法令遵守の周知を徹底するための方策の検討をしていく。
学校関係者評価	3 教職員の周知徹底に加え学生への周知も必要。今後どのように周知していくかの具体策を設定すること。

番号	9-42
評価項目	個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか
評価	2
自己評価等	個人情報保護の為の対策を実施し、全教職員に対し遵守を徹底している。
課題	安全管理措置をさらに強化する必要がある。
改善策	個人情報保護に関する説明会を催し、周知徹底を図るとともに対策の実効性を高めて行く。 学生には全校ホームルームや掲示物を使い徹底指導していく。
学校関係者評価	3 適正に行われているが、今後さらなる強化を期待する。

番号	9-43
評価項目	自己点検、自己評価の実施と問題点の改善に努めているか
評価	3
自己評価等	自己点検・評価は学校長を委員長とする学校評価委員会により実施されている。 改善活動は重点項目を挙げ、学校長の管轄下で行われており、実施可能なものから順次、改善に取り組んでいる。
課題	自己評価を定期的・継続的に実施し、学校関係者評価に取り組む。
改善策	毎年の実施の徹底と、改善方策の全教職員への共有をし、改善に取り組んで行く。 学校評価委員会規定の見直しも定期的に行う。
学校関係者評価	3 自己点検・自己評価が詳細かつ適切な体制で実施されている事が確認した。

番号	9-44
評価項目	自己点検、自己評価結果を公開しているか
評価	4
自己評価等	自己点検・自己評価を実施し、学校ホームページにて公開している。
課題	引き続き公開を順次進めて行きながら関連する様々な規定も整備が必要。
改善策	公開に関する規定を検討し整備して行く。
学校関係者評価	4 自己評価ついて、引き続き毎年ホームページで公開し、規定の検討を求める。

領域	社会貢献
-----------	-------------

令和2年度

▶評価 1:適切 2:ほぼ適切 3:ふつう 4:やや不適切 5:不適切

番号	10-45
評価項目	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか
評価	3
自己評価等	ファッション業界への人材・および労働力提供/パターン試験、ファッションビジネス検定の試験・講習会場として学生ホールや実習室等を提供している。また、OBの展示会場として提供し、ファッション教育の発展に貢献している。
課題	教育資源や設備をもっと多くのOBへと提供して行く必要がある。
改善策	OBへの認知度を上げるために同窓会組織と連携をとり、より多くの方に認知して頂き活用出来るようにしていく。
学校関係者評価	3 より多くの社会貢献のために何が出来るかを絶えず検討する必要がある。

番号	10-46
評価項目	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
評価	3
自己評価等	毎月2回NPO法人グリーンバードの地域清掃活動に、学生清掃ボランティアとして参加し、教職員と一緒にキャンパス周辺の清掃活動を行っている。学園祭でのチャリティーバザーを実施している。
課題	本校の学生がより社会貢献できるボランティア活動を積極的に奨励していきたい。
改善策	ボランティア活動は学生の活動として、何をどの程度支援出来るかを今後検討していく。
学校関係者評価	3 学生のボランティア活動への支援をいかに学校が支援出来るかの体制を整える必要がある。